

和道楽

大人の“和”読本
Japanese Life style Book

ABC
HOUSING



和への回帰

癒しの空間は、遺伝子が覚えている。

ライフスタイルの欧米化が定着したいまでも、私たちは靴を脱ぎ、床の上に座る生活を放棄することはありません。体の奥底がしっかりと記憶している、和スタイル。

そのよさを再認識し、いまの時代にふさわしい和とのモダンな接し方を、紹介しましょう。

調 和は自然と闘わない。

四季があり、比較のおだやかな自然に恵まれ、育まれてきた和(日本)の文化。石で家をつくり、過酷な自然と対決しながら発展したのが西洋文化なら、和の文化は草木という繊細な自然物を巧みに利用し、自然との調和をめざしながら発展してきたといえます。伝統的な日本家屋の庇(ひさし)が、深く、低いのも、自然のルールにかなった役割がありました。深い庇は水気に弱い土壁が横なぐりの風雨に直撃されるのを防ぎ、

また、低く垂れた庇は、落下する雨滴のはね上がりを抑えてくれます。太陽が高い夏は大きな日傘になって直射日光をしっかりと遮り、太陽が低くなる冬は庇の下からでも太陽光が入りやすく、屋内に貴重なエネルギーを提供してくれていました。茅葺など自然素材を使った屋根は、いまという屋上緑化の先駆的な存在。夏の暑気をやわらげ、冬の寒気の侵入も効果的に防いでいたのです。同様のエアコンディショナー的な働きは縁側にもあり、夏は外気をやわらげ、冬は冷気がそのまま室内に侵入するのを防いでいました。また、日本の良質な

美

和の「美」は、陰影の濃淡にあり。

美に対する考え方も自然体なのが和スタイルといえるでしょう。昔の人たちは

土を使い、たたいて固めた土間には、調湿機能があり家屋の腐朽問題に貢献。湿度も一年を通じて安定していたので、夏はひんやりと涼しく、冬は厳しい寒さを緩和してくれていました。このように日本家屋を舞台とした和の暮らしには、自然素材を有効に使って、自然と調和し共存していくための多くの知恵が盛り込まれていたのです。

は、本物の美とはモノ自体にあるのではなく、モノとモノとがつくり出す関係にこそ生まれてくると考えました。そのひとつが、光と影のつくり出す「陰影美」です。ある大作家は著書のなかで「明るすぎるとモノが粗末に見える」と語り、さらに「日本座敷の美は、陰影の濃淡によつて生まれている」とも語っています。光の乏しかった日本家屋で暮らすうちに、私たちの先祖は陰影のなかに美を見つけ、やがて美を引き立てるために陰影を利用するようになったのだらうというのです。また、床の間の役割にもふれ、掛け軸や花を飾る舞台装置としての役割よりも、それらの装飾品とともに座敷の陰影に深みを加えることのほうが重要であろうと喝破しています。いまでも新築の多くの家に和室が設けられていて、そこには必ずといっていいほど床の間が用意されています。欧米スタイルの合理性から考えると、居住空間を減らし、収納・整理スペースとしては中途半端

な床の間。それでも、そこになにか日本的な美意識が出現すると確信している人が多いことを、この傾向は物語っているのではないのでしょうか。

心

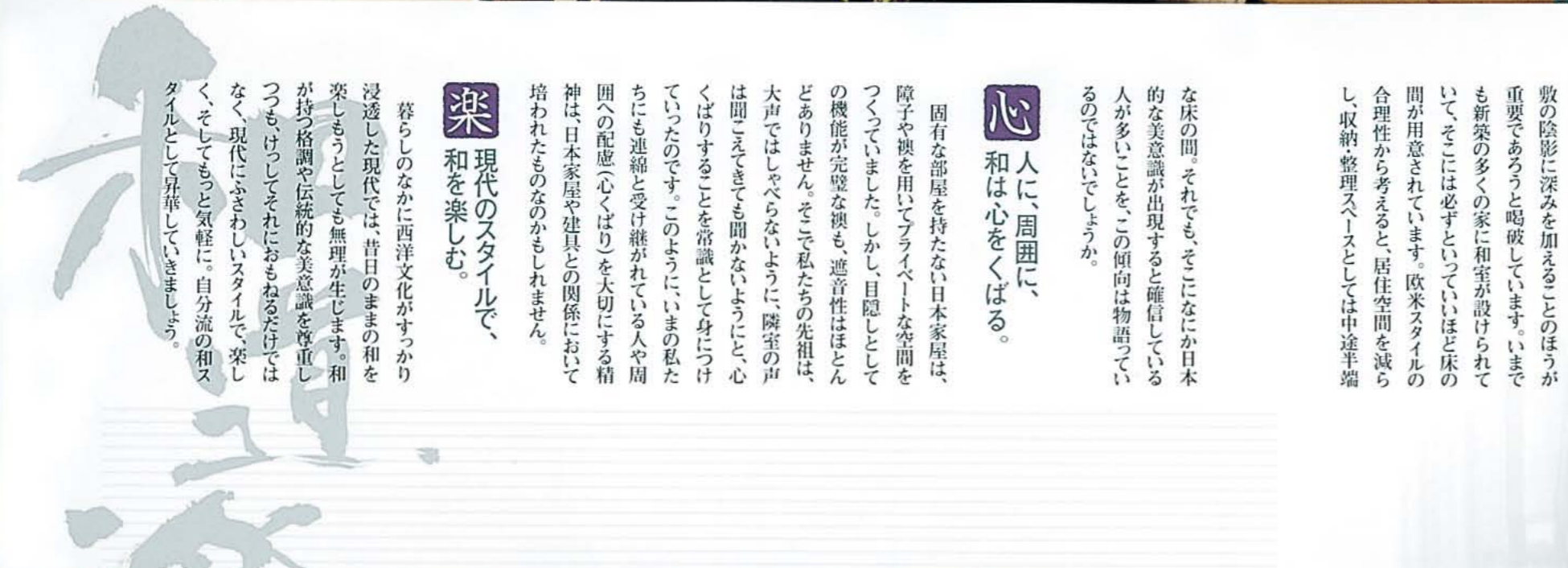
人に、周囲に、和は心をつくばる。

固有な部屋を持たない日本家屋は、障子や襖を用いてプライベートな空間をつくらせていました。しかし、目隠しとしての機能が完璧な襖も、遮音性はほとんどありません。そこで私たちの先祖は、大声ではしゃべらないように、隣室の声は聞こえてきても聞かないようにと、心くばりすることを常識として身につけていったのです。このように、いまの私たちにも連綿と受け継がれている人や周囲への配慮(心くばり)を大切にしている精神は、日本家屋や建具との関係において培われたものなかもしれません。

楽

現代のスタイルで、和を楽しむ。

暮らしのなかに西洋文化がすっかり浸透した現代では、昔のままの和を楽しむとしても無理が生じます。和が持つ格調や伝統的な美意識を尊重しつつも、けつしてそれにおもねるだけではなく、現代にふさわしいスタイルで、楽しく、そしてもっと気軽に。自分流の和スタイルとして昇華していきましょう。



1.姫路:積水ハウス 2.明石:ウィザースホーム 3.神戸・本山:エス・バイ・エル 4.神戸・本山:旭化成ヘーベルハウス 5.姫路:セキスイハイム 6.神戸・本山:積水ハウス 7.姫路:三井ホーム



景

景色と戯れる。

庭法に借景という手法があります。庭(庭園)をつくるるとき、庭の外の遠山や樹木をその庭のものであるかのように利用する手法で、これを応用して和モダンな空間を創出してみましょう。家の近くに姿のよい大木があったり、隣家に美しい庭があるのなら、それをそのまま借景とするのです。とはいえ最近の住宅事情を考えると、それほど恵まれたケースは少ないでしょう。そのときは、中庭なら敷地のある程度囲い、美しい景色だけを選別して借景とし、見たくない景色やものを視界から消し去ってしまします。

中庭に樹木がなかったり植えることができない環境なら、植木鉢を置いてみましょう。この小さな自然界にもちゃんと四季は訪れ、それを愛でることが楽しみのひとつとなってくるはずですよ。また、中庭に面した障子を雪見障子に替えて視界を限定し、その視界内に植木鉢や和趣豊かな調度品を置くことで、風情のある光景を室内から捕らえることができます。さらに降雪のあつた翌朝ならば、その名称のごとく先人たちの息を呑んだであろう美しい雪景色に出会えるかもしれません。



4.千里:ダイワハウス 5.明石:セキスイハイム

風

風を招く。

もともと日本家屋は、夏の高温多湿に合わせて開口部が大きく取られるなど、通風性がとくに重視されてきました。また、縁側のように家の内と外を隔てる境界があまりで、玄関さえも薄い一枚の戸板でよしとされ、世界でも例がないほど外に向かって開いた家だったのです。ただそれではあまりにも風雨や寒さなどの自然環境に対して無防備だということで、通風性を維持しながらも、必要な防寒性やプライバシーを確保するために格子戸や障子、衝立などが使われるようになってきました。

た。そこで、いまの暮らしのなかで風を感じさせる和空間づくりを考えるとき、これらの間仕切りアイテムを有効に使うことが考えられます。最近では木材や和紙を使ったスクリーンウォールや大型の間仕切りも登場し、期待する以上に風の通路が確保された気持ちのいい和空間をつくり出すことが可能です。また、廊下などに中庭や露地に代わるミニ坪庭的なスペースを設けることで、屋内に清々しい風がそよいでいるイメージも創出できます。

6.神戸・本山:住友林業の家 7.伊丹:ダイワハウス



光

光を操る。

貴重な日差しを雰囲気豊かに室内に採り入れるため、日本ではさまざまな工夫や道具が発明されました。その代表といえるのが障子です。もともとは、衝立(ついたて)障子や襖障子とよばれるなど空間を仕切るために設けられた建具の総称でしたが、いまは障子という明かり障子をさします。光の透過率は約40〜50%。直射光が障子紙を通過するときに拡散され、部屋全体にやさしくまんべんなく光を届けてくれるのが特徴です。直射光がそのまま当たっている部屋より、

障子を通して照らされた部屋のほうが視覚的には明るく感じるほど。それでいて障子を直接見てもまぶしいと感じることがなく、まるで光の魔術を見ているような楽しさもあります。以前は障子紙が破れやすくて頻繁に張り替える必要に迫られるなど、手間のかかるのが難点でした。しかし、最近では強度の高い障子紙を使ったタイプも登場して、気軽に利用することが可能になっています。



1.神戸・本山:三井ハウス
2.伊丹:エス・バイ・エル
3.伊丹:セキスイハイム

自然との遊文関係を深めると、「和テイスト」はもっと愉快になる。

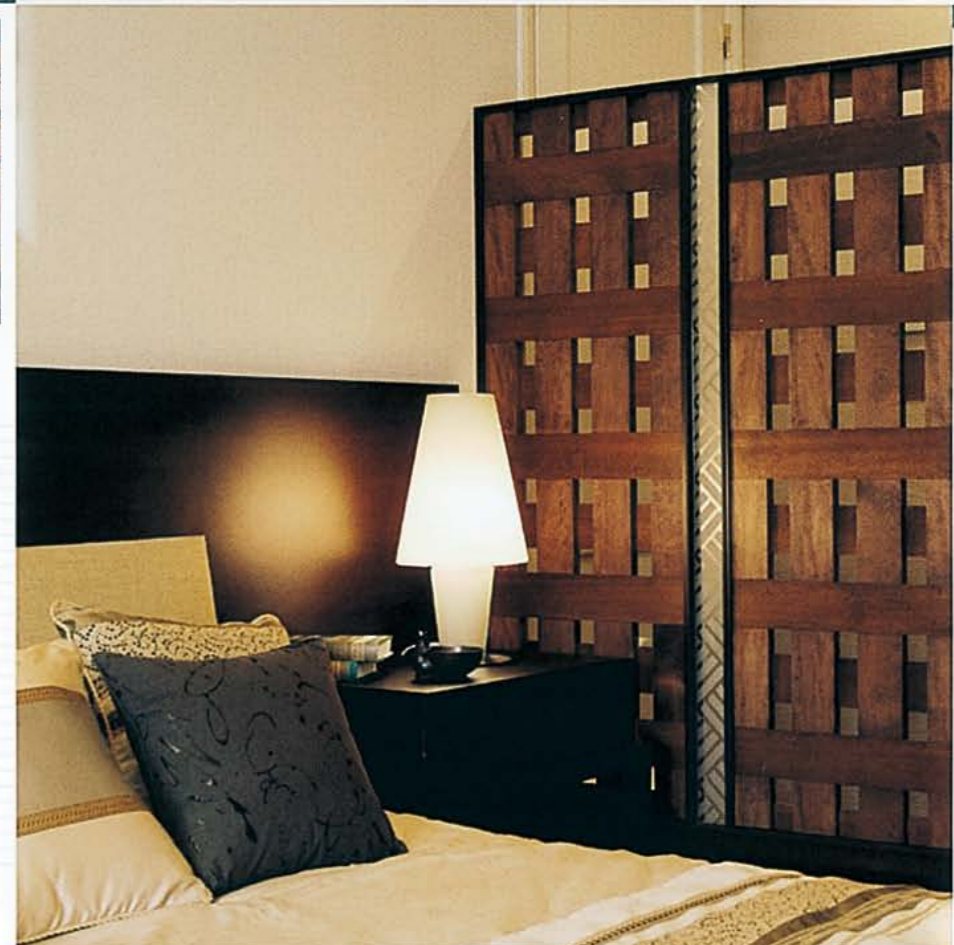
郷愁を誘い、私たちの心をやさしく癒してくれる和は、自然との調和を言みとしていいます。ここでは、旧来の和テイストを踏襲しながらも、現代の暮らしのなかで和と自然の調和をめざしたオリジナルコーディネート例を「紹介」します。



1.明石:住友不動産 2.りんくうタウン:セキスイハイム 3.神戸・本山:三井ホーム 4.りんくうタウン:ダイワハウス 5.千里:ダイワハウス 6.千里:エス・バイ・エル 7.明石:三井ホーム 8.伊丹:旭化成ヘーベルハウス

伝統的な日本家屋に見受けられた和空間のイメージをめざし、自然光や風、庭の景色などを効果的に採り入れて演出しています。室内にいながら、家の外にいるような開放感や爽快感、そして自然のぬくもりが感じられるように配慮。モダンな建具類を活かしつつ、どこか懐かしい和空間が出現しました。

景風先



適材適所の発想で、和の趣に変化をつける。

和室はもちろん、たとえば玄関など、とくに和の雰囲気を出したい場所があります。ここでは、さまざまなアイテムを使って、その場所や日本の伝統的な催事にふさわしい和空間の創造をめざします。



和の灯で、癒しの空間を広げる。

日本の暗間を長く照らしてきたのは、行灯(あんどん)に代表される下からの灯です。足もとからぼうつと立ち昇る灯が、上へいくに従ってほかに拡散し、やがて暗間のなかへととけていくさまは、見ているだけでも心が安らいできます。この床置き灯(スタンド・部分照明)を利用して、和空間を演出してみましよう。金属製の華美なものでは必要ないかもしれません。ただ、電球だけは光に温かみがあり落ち着いた雰囲気を演出してくれる白熱電球、

もしくは白熱電球に近いやわらかな光を放ち省エネ性と耐久性にすぐれた電球型蛍光灯の使用をおすすめします。もちろん、和室の灯としても最適で、天井からの全体照明を抑えめにして床置き灯を加えると、なごみの空間がさらにやさしきで満たされてきます。

和室の灯をアレンジするときには注意したいのは、親世帯など高齢者の居室となつている場合、減退している視力を補つてあげるためにも、ぜひ、ある程度の明るさを確保した照明を配置



1 明石:清水ハウス
2 明石:スウェーデンハウス



室礼(しつらい)の手法で、和空間を自在に装う。

日本家屋の部屋、とくに母屋などには備え付けの家具がほとんどありませんでした。いうならば、からっぽの箱状態です。そしてこの単純なつくりの部屋を、そのときどきの用途に合わせて、臨機応変に整備。宴会やハレの儀式などの行事開催の場として、また来客を歓迎する間として、ふさわしい飾り物や調度品を配置し、部屋内を整えていきました。これが室礼といわれる日本で発達した手法です。

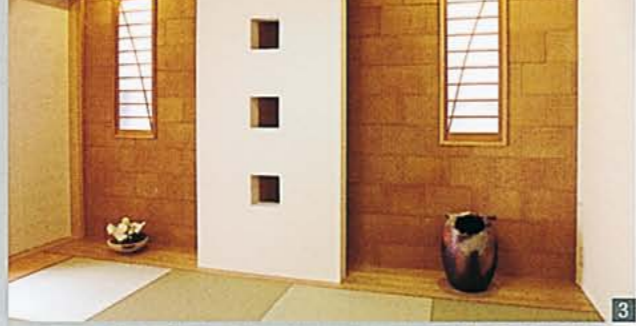
私たちが来客のおもてなしや季節行事の開催を、この和スタイルで実行してみましよう。といつても、ひと部屋まるごと室礼のために空けてしまうのは、あまりにも不経済です。そこで、たとえば玄関や部屋の一角を室礼の空間に決めます。そうして臨機応変に、来客の嗜好に合わせて花器や調度品を置いて出迎えてみたり、節句には雛人形や兜を飾つて子どもたちの成長を祝うのです。昔ながらの和風スタイルが、どこか懐かしく、それでいて旅かな雰囲気を伝えてくれます。

和と相性のよい素材で、相乗効果を狙う。

和と相性のよい素材で、相乗効果を狙う。家屋は木造建築、障子は和紙張り、床は畳敷きが日本のスタンダード。そこで和テイストを出すのにもっとも適した素材を考えると、すぐに木や紙、そして畳が思い浮かびます。木は、自然木や最近人気の流木なら、そのままを感じさせるオブジェとして使用。木製の壁材を数枚、材質や色合いがいて組み合わせるユニークな和スペースを創出するのも面白いでしょう。また、木素材の仲間である簾(すだれ)や暖簾(のれん)は、縁側に立てかけて和風情緒を

醸したり、室内では家具や家電製品を覆うことで手軽に和空間をつくり出せます。紙は、存在感がある和紙なら手を加えずに壁や天井に飾つたり、花器の周囲に着物のように纏わせる演出が楽しいでしょう。また、和紙は原材料である樹木の長い繊維がからみ合っていて意外なほど強度があるので、お気に入りにもなります。この他にも千代紙や友禅紙など飾るだけで和の趣を豊かにしてくれる紙がたくさんあり、お好みの1

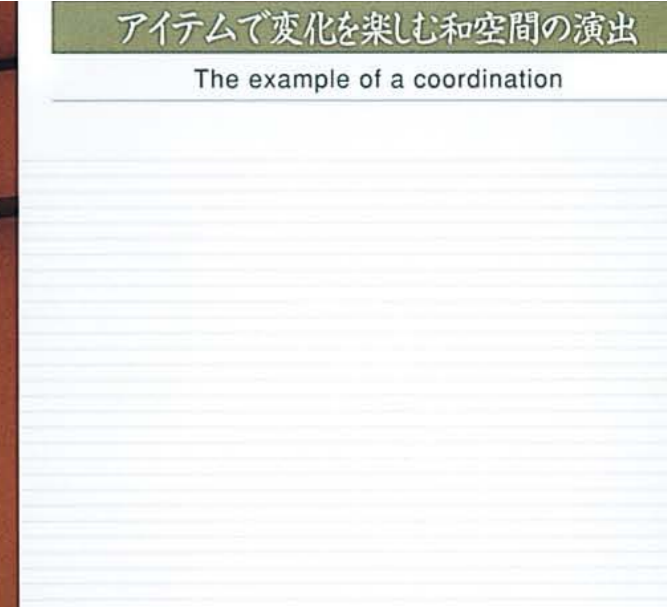
枚を探してみるのもよいでしょう。畳は、和の暮らしになくはならない存在。古くは奈良時代、すでに聖武天皇が畳ベッドを使っていた、いまも正倉院に現存しています。現在は和ブームを背景に置き畳や緑なし畳が人気で、洋室やフロアリングの上に敷いて手軽に和ライフを楽しむ人が海外でも増えていくそうです。畳には独特のやわらかくて弾力のある心地よさやリラクソスを誘うイグサの香りとともに、腰や膝への負担を軽減してくれるメリットも見逃せません。



3 伊丹:アデプトホーム 4 明石:住友林業の家



5 姫路:スウェーデンハウス



昔ながらの和風イメージを放ちながらも、どこか新しい。そんなモダンな和空間を、さまざまなアイテムを使って演出してみました。従来からの和のしきたりを尊重しつつも、現代にふさわしいアレンジで、より楽しく親しみやすい和空間の創出に成功。ご高齢の方にやさしい機能を付加することも可能です。



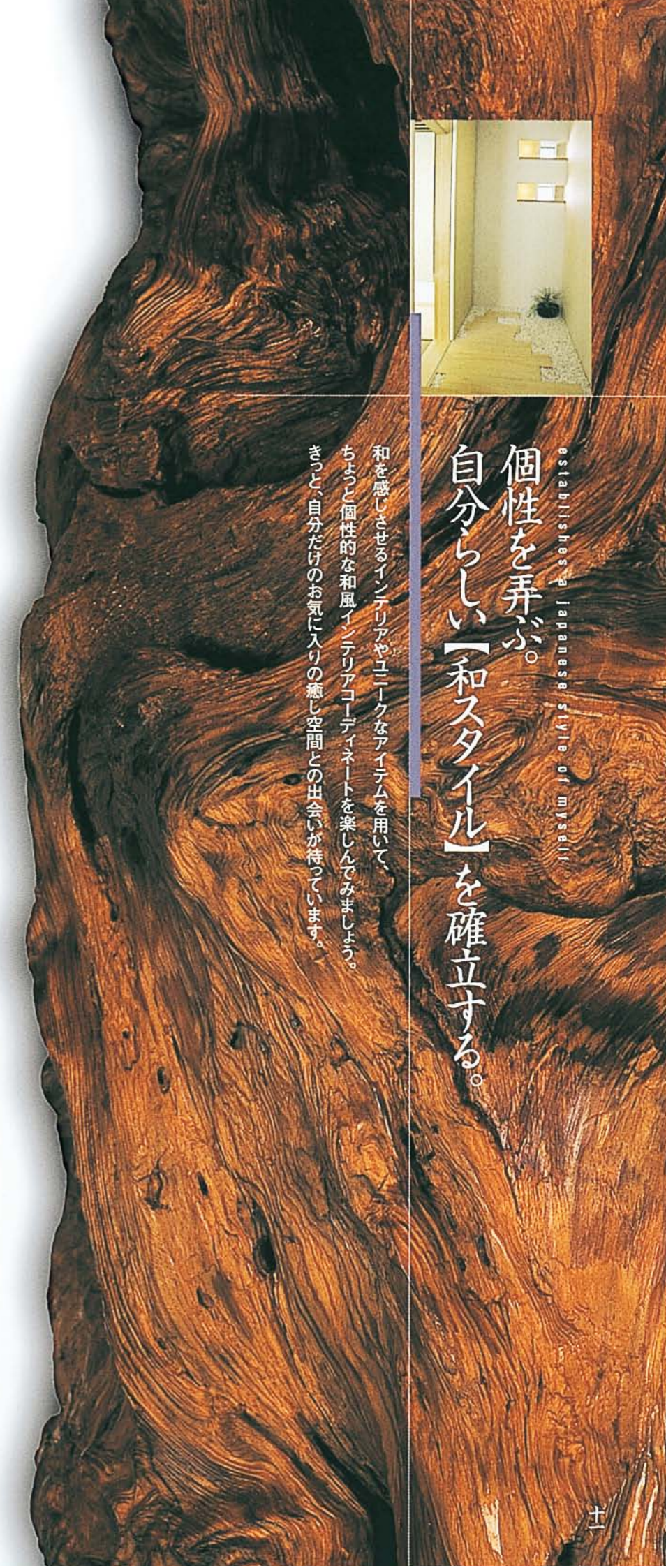
1.姫路:住友林業の家 2.伊丹:三洋ホームズ 3.千里:セキスイハイム 4.伊丹:ミサワホーム 5.神戸・本山:ダイワハウス 6.明石:アットハウジング 7.伊丹:セキスイハイム
8.神戸・本山:旭化成ヘルハウス 9.伊丹:スウェーデンハウス 10.姫路:積水ハウス

灯器 品 木 絨 畳



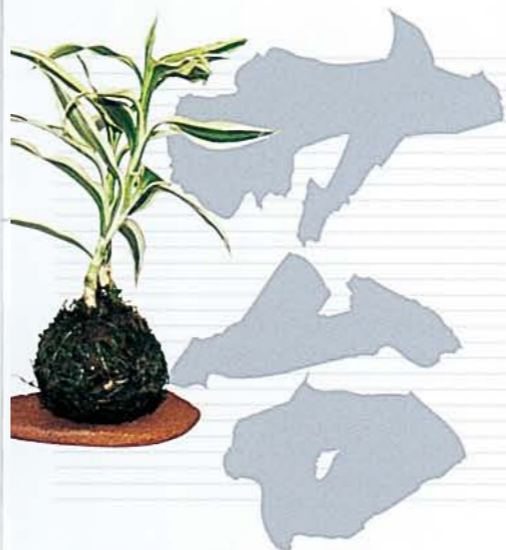
個性を弄ぶ。
自分らしい「和スタイル」を確立する。

和を感じさせるインテリアやユニークなアイテムを用いて、ちよつと個性的な和風インテリアコーディネートを楽しんでみましょう。きつと、自分だけのお気に入りの癒し空間との出会いが待っています。



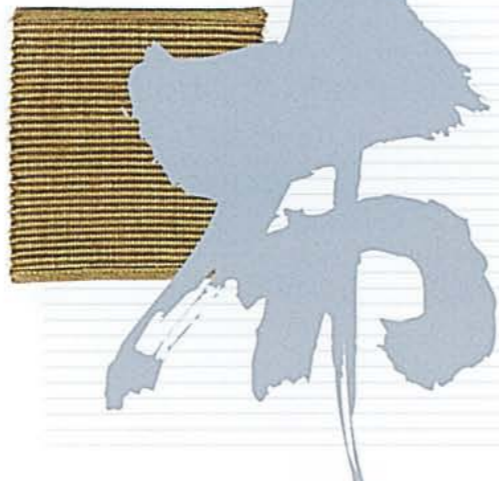
枯

山水など、石は庭園づくりにおいて重要な役割を果たしてきました。大がかりな演出ではなく、小さな石ひとつであっても和風イメージの存在感を十分に示してくれます。やや大きめの天然石ならば、和風クッションの上に乗せてオブジェ風に演出。小さな石ならば、廊下の一角に専用の空間を設けて敷き詰め、小さな庭園風に演出すると風情のある光景が出現します。



侘

び寂びの世界を小さな身体に纏ったかのような苔類。いま、この小さな癒しアイテムに人気が集まっています。本格的な盆栽とちがひ、ほとんど手間がかからないので取り組みやすく、設置場所も選びません。単体で床の間の一角にそえてみたり、和風の家具や調度品と組み合わせると、古風な和のイメージを創出したりと、手軽にマスコットのな和スペースをつくることができます。



衣

桁を使い、壁二面を覆うような大きな布や、部屋のアクセント的な目的でスリムな布を飾ってみましょう。また、あまり着なくなった浴衣や着物(内掛け)があれば、和風オブジェとしてそのまま飾るのも、インパクトがありユニークな演出です。帯を広げてテーブルに垂らし和風テーブルクロス風にコーディネートするのも、簡単にできるおしゃれな演出法です。



昔

の民家の多くは土壁でできていました。土は湿度が高いために湿気を吸い、湿度が低くなると吐き出す調湿機能があり、これを利用して土蔵も生まれたといわれています。この機能的で趣のある土壁をイメージして、予め予定した壁に最近の素材である珪藻土を塗ってみましょう。このとき、わざとコテ跡を残すのがポイント。手塗り感いっぱいの漆喰風の壁に仕上げることができます。



こ

の他にも、私たちの身の回りを探せば、レトロ調の玩具や古くなった器、和骨董、旅行土産の民芸品など、和を感じさせるアイテムはたくさん見つかるはず。これらに自分だけの発想と工夫をプラスして、こだわりの和テイストがいっぱいの演出や空間づくりにチャレンジしてみましよう。きつと、毎日の疲れを癒してくれる極上の和空間が出現するはず。



4



5

1.伊丹:積水ハウス 2.姫路:スウェーデンハウス 3.伊丹:住友林業の家 4.姫路:アットハウジング 5.神戸・本山:旭化成ヘーベルハウス



3



1